

- (1) 日程：2011年4月1日（金）から4月7日（木）まで
- (2) 視察教会：郡山、福島、磯山（*）、仙台、室根、水戸、銚子、浦安
- (3) 視察地域：郡山市、福島市、新地町、仙台市、石巻市、一関市、室根町、気仙沼市、陸前高田市、日立市、水戸市、鹿島市、神栖市、銚子市、旭市、浦安市
- (4) 写真：

<https://picasaweb.google.com/Joshua.yoshifumi.osada/pedVsK?authkey=Gv1sRgCOnf2b2LzMireA#5593154681701533970>

- (5) 日々の行動報告

- ① 4/1 神戸出発、名古屋学生センター着。その後、東北地方で必要な物資を購入し、中部教区センターで渋澤主教様と神戸教区の各教会から送られてきている物資について相談する。結果、中部教区に東北地方へ運んでいただくことになった。
- ② 4/2 名古屋出発、日立市着。諸事情で東北地方に入ることができなかった。この日立市で物資のガソリンを補給。約180リットル。日立駅前の東横インで宿泊する。駅前の様子は写真に収めていないが、至るところで地盤沈下していた。
- ③ 4/3 日立出発、仙台着。昼過ぎに郡山の教会に着いたが誰もおらず、近くの関係幼稚園へ行って事情を聞く。園長先生の話によれば、郡山の教会は物資の集積所になっている教会の近くでは地震の影響で1階部分が崩壊し、なおも2階3階部分がひっくり返りそうになっている住居があった。

郡山を離れた後、福島市の聖ステパノ教会に寄った。事前にこの日の夕方5時から聖餐式が行われると聞いており、この教会の管理牧師である影山博美司祭様は仙台聖フランシス教会で司牧されており、その教会に隣接する青葉静修館に本日は宿泊させていただくことになっていたため、ご挨拶のため、お伺いした。

影山司祭様にその後の予定を話し、そして夜9時にミーティングさせていただき約束をして、福島市を離れ、新地町の磯山聖ヨハネ教会に向かった。沿岸から離れた役場は機能していたが、表現としてはまずいかもしれないが、新地町は壊滅状態であった。そのようななかで、教会を探すのも困難であり、しばらくすると辺りは真っ暗闇になった。街灯一つもないので、暗闇に包まれた。そこで、懐中電灯を手にとって、車を降りて、歩いて探したが、見つからなかった。役場に戻り、地図を見せていただき、そして教会の様子を伺うと、教会は一時避難所になっていたとのことだった。しかし、その教会に向かうための道は封鎖されており、別の道を通っていくことも、遺体捜索が続いているため立ち入りは難しいということだった。同乗者全員、心を痛めて、仙台に向かった。殆ど口を開くことなく、仙台に入った。

夜9時、仙台聖フランシス教会の影山司祭様とミーティングし、その後近くのナザレ館に向かった。そこは、杉野・浪花神学生が宿泊している場所であるが、そこで滞在されている長谷川司祭様にご挨拶に出かけた。長谷川司祭様がこの度の災害対策本部長とのことだったからである。その時、今回の予定をすべて報告し、宿泊施設の青葉静修館に戻った。

- ④ 4/4 本日は東北教区の災害対策本部に同行し、石巻市に入った。石巻市では約 2 万人の避難者がいる。市の救援ボランティアセンターが石巻専修大学にあるため、最初にそこに向かった。ここで手続きをした後、石巻市の物資集積所に行った。この時、一番必要なものは土嚢袋と食料品だと伺った。国や NPO からたくさん土嚢袋を受け取っているが、それでもまだまだ足りない状況である。毎朝、専修大学を出発するボランティアの人たちが民家の泥を除去するためにその土嚢袋が必要なのである。

物資を下ろした後、東北教区の皆さんとは別行動をする。中村主教の命によってボランティアグループの「吉村さん」を尋ねる。アポイントを取ろうと連絡すると、すぐさま湊中学校で泥かきをやっているの、手伝ってほしいと言われ、永野兄、杉野・浪花両神学生、釣田兄、私は作業服に着替えて現地に向かった。現地で長靴をいただき、作業に入った。分厚く固まっていた泥をスコップですくい、それを土嚢袋に入れて別の場所に捨てる。その繰り返しの作業だったが、私たちが作業をしている場所に車が止まっており、車内で水死していた犬を発見した。夕方、他の人たちより先に作業を終えて、仙台に向かった。加藤主教様とアポイントをとっていたからである。仙台基督教会で主教様にご挨拶し、その後宿舎に戻った。夜 9 時頃、林司祭と京都教区の出口崇執事が到着され、長谷川司祭様に明日の予定を伝えた。

- ⑤ 4/5 本日は林司祭、出口執事、杉野神学生が釜石、大船渡に視察に向かい、永野兄、釣田兄、浪花神学生、私が室根、気仙沼、陸前高田に視察に向かった。室根聖ナタナエル教会の様子は地震だけの影響であったが、周りの家屋が倒壊している様子はなかった。永野兄を肩車して、教会の中の様子を見たが、土壁が崩落している部分が多々あった。その後、気仙沼に向かった。この地には聖公会の教会はないので、カトリック教会に行こうとした。そこでその場所を聞くために、市役所に行ったのであるが、入り口には安否情報が数万枚張られていたのを見た。役所の人に場所を聞き、カトリック教会に行った。が、物資はカトリックの流れで入ってきているので、必要ないとのことだった。その後町の様子を見に行くと、沿岸には真っ黒焦げになった大型船がそのまま置かれていた。他にもまだまだ手がつけられていないところがあった。いたるところの家屋に「Cr」と書かれている張り紙があったのであるが、それはおそらく破壊しなければならない家屋や建物なのであろう。優先順位を立てて、行政が破壊を進めている、今はそのような段階であった。

その後、気仙沼を後にして、陸前高田市に入った。よくテレビで映されており、今大地震で一番被害が大きかったとされている地域である。この町は沿岸から 4-5 km も離れた辺りから被害が見られた。しかもその被害状況は少しだけのものではなく、甚大なものであった。この地域には教会は単立のペンテコステ派一つしかなかった。しかし物資は必要ないとのことであった。町の状況は最悪で、市役所も崩壊していた。その後、私の大学時代の先輩で、今は日本キリスト教団の牧師先生をなさっている草地先生と連絡することになり、先生が陸前高田に向かっているとのことで、落ち合い、先生がベースを置かれている大船渡の教会へ私たちの車にあった物資を運んでもらうことになった。しばらくして、大船渡を回っていた、林司祭らと合流し、仙台へと戻り、仙台に到着していた上原司祭と合流した。

- ⑥ 4/6 本日は、神戸教区的人员が 2 グループに分かれ、林司祭、永野兄、私のグループは最初日立

市の沿岸部へと向かい、そこで横浜教区の片山司祭様と合流した。片山司祭様は横浜教区・銚子諸聖徒教会で司牧されており、ご自分がいらっしゃる千葉県は復興が始まっているとのことで、他教区ではあるが、茨城の様子を視察するために、日立市へと来られた。その片山司祭様と共に日立市の沿岸部を視察し、水戸聖ステパノ教会の斉藤司祭様を訪ね、その後鹿島市、神栖市の津波被害、液状化現象による被害を見て回った。道中、片山司祭の説明を聞きながら回ったが、神栖市では今でも 100 数名の方々が避難生活をされている模様。水道が止まっている地域もある。片山司祭は、東北地方だけが今回の大震災に遭ったのではなく、北関東も、千葉県も地震や津波や液状化現象に遭っていることを忘れてはならないと言っておられ、私たちもその言葉をしっかりと心に留めた。この日の夜は銚子諸聖徒教会でお世話になった。

- ⑦ 4/7 本日も片山司祭様の案内で、まず旭市に向かった。この地域は死者十数名を出している、千葉県で一番被害の大きかった地域である。今も 100 数名の方々が避難生活をされている。九十九里浜は地形がいびつになっているため、被害を受けているところとそうでないところがはっきりと分かれていた。これは 4/6 に見た北関東沿岸地域でも同じことが言えた。その後、浦安伝道所に行き、浦安市内の液状化現象による被害を見た。電柱が傾いたり、路面が崩壊していたり、建物自体も傾いていたところがあった。浦安伝道所自体も、3cm ほど地盤が沈下していた。この地域では、下水道が壊滅しているそうである。その後、私たちは片山司祭と分かれ、神戸に戻った。

(6) 今後の課題として

- ・ 物資としては日々状況が変わるゆえに、避難者が多いところに今何が求められているのかをしっかりと把握する必要がある。そのためには、実際には個々の市のボランティアセンターに問い合わせた方が、より確実ではないかと思われる。実際に、石巻市に行った際には土嚢袋と食料が不足していると聞いたことのように、である。
- ・ ボランティアは選任した方が良くと思われる。現在、東北でのボランティアに行っている方々の中に、また自衛隊員の中にも精神的に参っている人が続出するほど、現地では肉体的、精神的に困難を要する。そのような状況の上に、スタンドプレーをする人がいれば、それはより精神的な苦しみを周りに与えてしまうからである。自分ひとりの思いだけではなく、周りの人との協調性が何よりボランティアの人間には必要である、ということを感じている。もちろん、これは組織的な動きをするということにも関連しており、いつも色んなところから指示が飛んでいるのでは、混乱してしまう。だからこそ、指示の出所は一箇所に絞って、報告を上げるところも同じように、一箇所にした方が良い。
- ・ ボランティア活動においては、市役所等の役場だけではなく、吉村さんに問い合わせることも可能になるように思う。
- ・ ボランティア派遣期間については、現地の状況から一週間から 10 日ほどに限定した方が良いでしょう。